

住・まちづくりフォーラム かわら版(仮題)

ニューズレター第2号 1994年3月14日



特集 第2回住教育フォーラム

- 世田谷区における街づくりの住掛と住環境学習
- 絵本創作と住環境学習

発行/財団法人 住宅総合研究財団

2

住むことへの思いやりの心を

次代のよき住まい手と作り手を育む

フォーラムの開設に当たって

当財団では、この度、標記のフォーラムを開設し、新たな活動を開始することといたしました。よろしくご協力のほどお願いいたします。

思い起こしてみますと、われわれ日本人は、第2次世界大戦後、急速かつ大量安価な住宅供給のニードのなかで、いとも安易に古来からのモジュールによって支えられた日本間と、そこに展開される生活習慣に訣別すると同時に、住まい方に対する規範を失ってしまいました。

家の中での作法や禁忌は、省みられることなく、経済最優先の社会構造、家族や家庭の機能の変化は、住まいや近隣、あるいは地域に対しての敬虔な態度を、ともすれば忘れさせてしまいました。その結果、この約半世紀という時間は、日本に経済的な繁栄をもたらしたものの、地球環境や精神世界で、取り返しのつかないほどの大きな荒廃を生み出しつつあるともいえます。

残念なことに、次代を担うべき子どもたちの住まいに対する親密な気持ちや慈しみの心もまた、いつの間にか失われてしまいました。「住まい」とは、当然、住宅だけでなく、住んでいる・暮らしているところ全て、まさに社会や環境そのものです。社会の中で個人が、市民としていかに住まうのか、さらには、家族や近隣・地域を含めて人間としてどう生きていくのか、住まい＝社会＝環境と人のあり方を幼いときから生涯をかけて、学び直す必要が痛感される次第です。

本来の人間としての思いやりの心と心豊かな暮らしを取り戻し、次代のよき住まい手と、よき住まいの作り手を育むことが、今こそ問われているといえます。このフォーラムが、皆様のご支持を得て少しでもお役に立つよう願ってやみません。

・なお、このフォーラムは、当財団の住教育委員会によって企画運営されています。次の皆さん方を委員にお願いしています。

委員長	熊本大学工学部建築学科教授	延藤 安弘
委員	東京学芸大学教育学部家庭教育学科教授	小澤紀美子
〃	千葉大学園芸学部助手	木下 勇
〃	跡見学園短期大学家政科講師	加藤 仁美
〃	筑波大学付属小学校講師	町田万里子

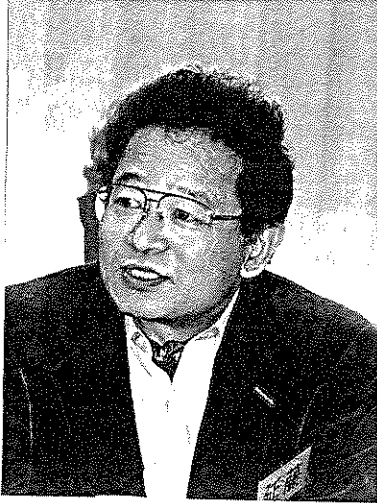
1993年8月23日

財団法人 住宅総合研究財団
専務理事 大坪 昭

次回予告は裏表紙に

- ・この「住・まちづくりフォーラムかわら版」は、住教育フォーラムの開催記録を仮にまとめたものです。将来、何回かのフォーラムの成果と、各委員の皆さんによる研究論文を合わせて、書籍として刊行する予定ですので、ご期待下さい。
- ・また、次回のフォーラムのご案内状も兼ねています。裏表紙をご覧ください。

・表紙デザイン、裏表紙カット＝町田万里子 ・編集・文責＝事務局 間宮昭朗



開会に当たって

住宅総合研究財団住教育委員会委員長 延藤 安弘
(熊本大学工学部建築学科教授)

この委員会は、すまい、街づくりというものを、教育という見地から勉強してみようという集いです。しかし、教育というと何となく堅苦しいので、むしろすまい、街づくりの学習という言い方をしています。そして、学習も、「学習」ではなくて「楽習」という字を当てたほうがいいのではないか、などということをお話混じりに言ったりしています。住み手、子供に楽しいアクションを起こしながら、知らず知らずのうちに、街づくりやすまいに対する感受性を開くという、その仕掛けを多様に検討してみようということで、前回から、こうしたフォーラムを重ねようとしているわけです。

今日は、街づくりの仕掛けを世田谷区で多様に展開していらっしゃる原さんに、街づくりの仕掛けが半ば意図的に、半ば結果的に、住み手、とりわけ子供たちにかかわる主体の心を開くような成果を上げておられることを、いろいろとお話していただきたいと思っています。また、市民の側、住み手の側から、遊び心、あるいは自らの得手を生かしながら絵本を作り、それを街づくりの主題と重ね合わせる中で思わぬ街づくりの糸口を見付けられ、自らの生きがいになり、周りの人々にも多様な影響を与えておられる、地元いらっしゃる町田さんにも、後半にお話を伺いたいと思っています。今日は、「楽しい街づくりの仕掛け」ということで、皆様とともに有意義な一時を送れたらと思っていますので、よろしく願いいたします。

第2回 住教育フォーラムの記録

主催 (財)住宅総合研究財団 住教育委員会

- ・日時 12月3日(金)午後6時～午後9時30分
- ・会場 当財団会議室
- ・講演
 1. 世田谷区における街づくりの仕掛と住環境学習
世田谷区企画部都市デザイン室室長 原 昭夫氏
 2. 絵本創作と住環境学習
筑波大学付属小学校講師 町田万里子氏
- ・司会 学芸大学教育学部教授 小澤紀美子氏
- ・コーディネーター 熊本大学工学部教授 延藤 安弘氏
- ・ファシリテーター 千葉大学園芸学部助手 木下 勇氏
- ・記録 跡見学園短期大学講師 加藤 仁美氏
- ・参会者 建築系・教育系などの研究者・実務者、ならびに大学院生・学生
街づくりなどの活動家、関心のある主婦の方など37名

- ・司会の小澤先生のコメント だいぶ遅くまでご熱心なご討議をしていただいて、私どもがいちばん理想にしていた濃密な話し合いができたという感じがします。和気あいあいと笑いの連続の中に深いところまでお話ができて、大変よかったですと思います。どうもありがとうございました。



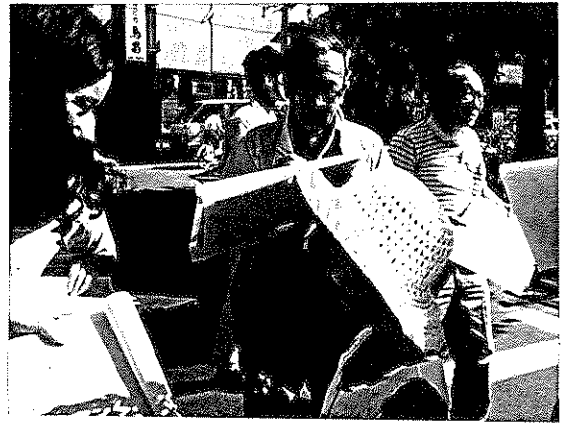
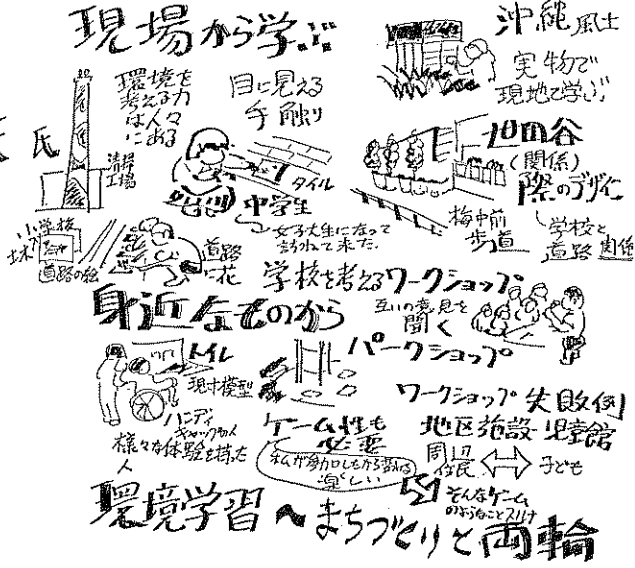
司会の小澤先生

住教育フォーラム 第2回 楽しいまちづくりの仕掛け

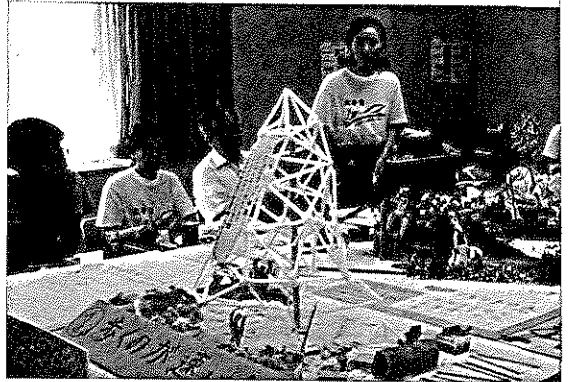
まちづくりと環境学習



原昭夫氏



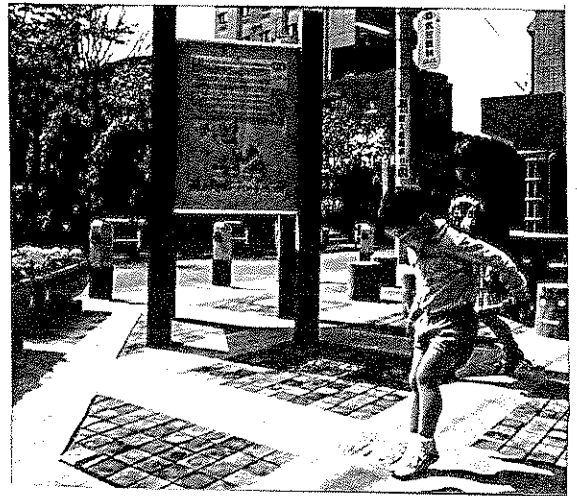
パークショップ公園づくり、大人も子どもも街を見る



見てきた結果を整理し、グループごとに模型で提案



「煙突」で知った「環境を考える住民の力」、たかが煙突でも、結果は素晴らしい財産になった



子どもたちの提案が実現した小公園、木の素材が中心



ワークショップは、ゲーム性や達成感が大切



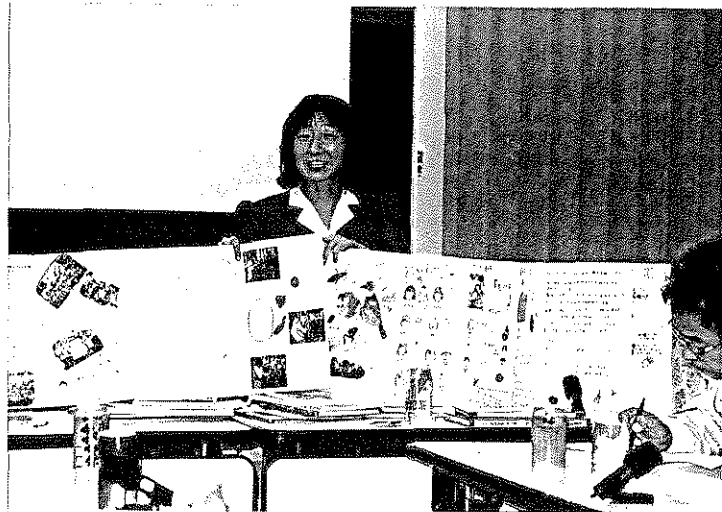
身近なもの、プロセスを公開して現物で意見を聞く



野菜の切り口はバラの花
野菜版画の『野菜の国の冒険』



民話を版画で絵本に、サークルで
作った『太子堂橋のきつね』



大賞授賞、6年1組の畑作りの克明なドキュメント



考え、学び、発見する紙芝居作り、私自身の勉強に



絵本創作と環境学習

子育てと手作り絵本

岡田万里子 さん

わかるへの絵本
から始まり

50冊

図書館自主サークルで お母さんの産

広がり 学校、児童館

生活の場 世田谷の民話と絵本に

お母さんたちと子ども達
やればできるでない

たけなかとん
あやあやかわら版
まだ続いている。

子どもが第5回まちづくり

コンクールに
西経堂園地理解を
こころのつな
こころのつな
こころのつな

16回まちづくりコンクール

北沢川今昔物語
つくろくが調べる
考え学び
発見したり

図書館自主サークルで お母さんの産
広がり 学校、児童館

生活の場 世田谷の民話と絵本に

太子堂橋のきつね

区民の母と何度モ謝る
区民の母と何度モ謝る

世田谷のまちづくりコンクールへ

子どもが学校から出しと持ってきた
子どもが学校から出しと持ってきた

お母さんがやれば
お母さんがやれば

大賞受賞
大賞受賞

世田谷区で 系誌が届け出し
世田谷区で 系誌が届け出し

学校で野菜作り
学校で野菜作り

討議は和気あいあいと



行政の中でどのように意識が姿勢を持つか

担当者の意識が (各館の) 関係性

A: 全員が関わるのは難しい

イベント 担当セクションがリ- タラ割りも水平的に合わせる

Q: 成反して何か 内部 若し者が関わると 責任者、セクションが 点検 いろんな職場が参加

A: まだつぼま 合意がでたら 行政も 体験 市民も 参加はエネルギー使 休みのなれる

行政も 体験 市民も 参加はエネルギー使 休みのなれる

特別解 ではない

行政 市民 参加はエネルギー使 休みのなれる

イベント型でなく 違う展開を

スロウな やるイベント



コンクールテーマ

市区改正50周年 記念

まちづくり市民主体で

2回目 国際展

3回目 長寿年 定着

イベント事務局、そのほか無...

各部署 他セクション 委託 系統 整理

今回は 手法 方法論について 深めよう

「学び」 学ぶつづくる

地域に住む人 才能 宝庫

引き出していく 広げていく きっかけづくりは?

学ぶ機会

他にもいろんな宝庫の持っている人 いるのにどうしたら引き出せるか?

無関心な人の 参加へのきっかけづくり

コンサルタントの役割は? 行政 公平性の論理

まちづくり 誘導型 → 参加型へ 変わりつつある

参加

学校厚壁

コンサル費用がある なかなか気長に 取り組めない

若松 (地域総研)

自然に屋敷の のはずかか 難しい

吉川 地域をつくる力を信じてやっている

ローカルな 自治体として参加

無関心な人 起る記憶 持たない

二か方は 皆参加できる 時代

学識 経験より 生活体験が重要

手あかのついた環境が 身の回り= 増えていたら... いい

住民と行政のパートナーシップ 相手の立場に立つ 個性的な同一人の心に響かせる (E1) (J10)

学識 経験より 生活体験が重要

手あかのついた環境が 身の回り= 増えていたら... いい

延藤先生のまとめ

まちづくりは楽しい!!

先ほど、講師お2人のスライドと、大変心わくわくするようなお話を聞かせていただき、聞いている方々の顔つきをじっと観察しておりますと、唖然としつつ、街づくりとはこんなに楽しかったのかしらという驚きの表情が、とても印象的でした。今日のテーマに向かって、全体として楽しく、作りながら学ぶという、街づくり学習の方法の意味を深めることができたのではないかと思います。今後に備えましてお話いただいたことの中から、あるいは皆さん方の討議の合間に見え隠れしている論点をすくい上げて、まとめに代えたいと思います。

◆住民は街をつくる宝物を秘めている存在である

第1は住み手といいますが、住民は街をつくる宝物を秘めている存在ではないかということです。原さんが冒頭に、住民が街をつくるパワーを宿しているとおっしゃいましたが、まさに住民が街をつくる担い手であり、本来的には一人ひとりが、街づくりの力を体内に宿している存在であると。これが今日の議論の一つの大きな柱ではないかと思えます。そしてこのパワーや宝物には、三つの要素から成り立っているのではないかということでした。

- ・すまいや周りの環境や生き方について、願いや夢を持っている
- ・実現のために動く力を持っている
- ・対立とのコンセンサスをつくる心を持っている

◆潜在的なパワーを顕在化させる仕掛けや条件

第2に、いままで眠って住民の中に眠っていた力をどう引き出すのかという問題があります。潜在的なパワーを顕在化させる仕掛けや条件とは何だろうかという問いかけが、全体に響いていたように思えます。これには三つの仕掛けがあったと思います。

- ・ナマモノ。生の素材から街づくりや暮らしを見る
- ・楽しさ。楽しい創造活動がパワーを顕在化させる
- ・ゆっくり。やり続けることで、力が周りに広がる

◆街づくりや学習の効果は

そうした進め方の街づくり、あるいは街づくり学習の

効果という点では、やはり二つあったように思えます。まず、一つは多様な関係のデザインの仕組みを開く効果ではないかと。関係のデザインというキーワードは原さんがおっしゃったことですが、五つの意味が含まれていたように思えます。

・多様な関係のデザインの仕組みを開く効果

1. 人間と空間の関係の距離が短くなる
2. 空間の結び合わせの仕掛けという関係デザイン
3. 垂直の関係から水平的な関係に置く
4. 人と人との関係を取り結ぶ
5. 住民と行政と企業のパートナーシップを高める

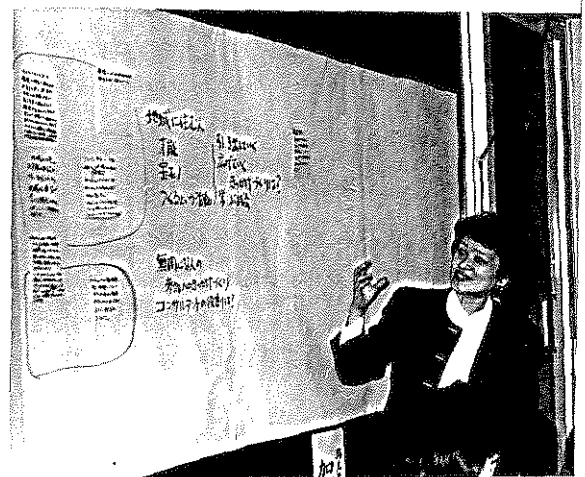
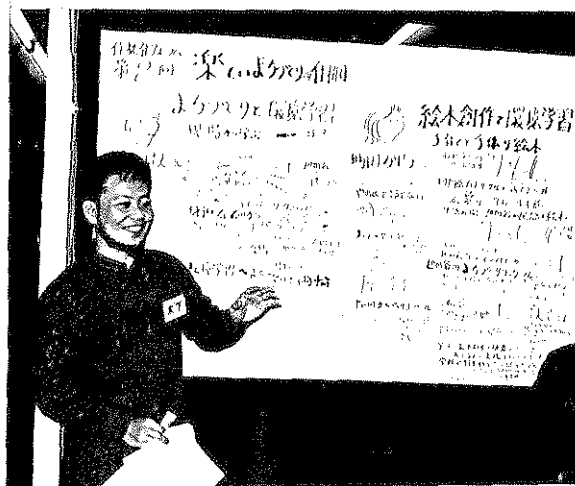
それと共に二つには、こうした作り方や学び方というのは個性的な空間を産み出すと共に、

・かかわった人に名状し難い豊かさを心に広げる効果というものを、心の中に広げているのではないか。いわば人がその地域に、あるいはその環境に住まうこと、生きることの本質的な意味を豊かにすることなのです。単なるものの機能の世界ではなく、生きる意味を豊かにするという、そういう世界を開いていく力を内在させているのが作りつつ学び、学びつつ作るということの仕組みの中に出てくるのではないかと感じております。

◆次回はワークショップなどの方法論を

いまの議論の中で明らかになったように、住民の側も専門家の側も行政の側も、共に作りつつ学ぶという関係をより深めるためには、何か固有の手法があるのではないかと。あまり狭い意味での道具性というものでなく、基本的理念から、個体の体の動かし方に至るまでの広い意味での手法、あるいは専門家のかかわり様、あるいは行政の支援の仕方ということも論議を進めたいと考えています。

そういう点で、ワークショップやデザインゲームの方法論について、次回のフォーラムで、より深めてはどうかと思えます。私たち委員会の方でも、どのように論点を定めるか、今日の討議を参考にさせていただきながら、次回に繋いでいきたいと思えます。ともあれ、お2人の講師の方に、とても触発される豊かな議論をいただきまして、このテーマの重要性と面白さ、深さみたいなものをつくづく教えられたような気がします。どうもありがとうございました。



テーマ
ワークショップを考える

－ワークショップの街づくり学習における有効性と方法類型－

この住教育フォーラムでは、第1回は「公の場における住教育・環境学習」を、続いて第2回目は、「街づくりの仕掛と住環境学習」とらえ、その実態を通して、問題・課題をえぐり、討議を行い、さらには提言までを頂いてきました。また、講演の後には、自由討議を行い、ご参加の皆さん全員のご意見をファシリティ・グラフィックにまとめて行くなど、ユニークな、楽しい、有意義なフォーラムを続けました。今回は、視点を学習の手法に向け、「ワークショップ」について語り合おうと、標記のテーマを取り上げました。

『最近、ワークショップという言葉が、あちこちで聞かれるようになりました。何か、手や身体を動かして作業するのがワークショップのようにも見て取られますが、では、実習や作業とワークショップはどう違うのでしょうか。ワークショップってなんだろう、と思っている人も多いことでしょう。』

ワークショップって何(What)?という疑問に、なぜ(Why)? だれが、だれに(Who, Whom)? どこで(Where)? いつ(When)? どうやって(How)? と、いくつかの例を見ながら、まちづくり・住教育におけるワークショップの理論化を皆さんとしてみたいと思います。

講師は、その道に詳しい林 泰義(計画技術研究所所長)さんと私の掛合漫談、内容は大いに期待のもてるものになりそうですよ。』

講師のお一人、木下 勇(千葉大学園芸学部助手)さんの「予告編」です。

ころは佳し、春の宵の一刻を大いに語り合おうではありませんか。ぜひご参加下さい。お待ちしております。

記

- ・日時 4月11日(月)午後6時～午後9時
- ・会場 当財団会議室
- ・講演 1. 計画技術研究所所長 林 泰義氏
2. 千葉大学園芸学部助手 木下 勇氏(住総研住教育委員会委員)
- ・討議 参加者全員による
- ・司会 学芸大学教育学部教授 住総研住教育委員会委員 小澤紀美子
- ・コメンター 熊本大学工学部教授 " 委員長 延藤 安弘
- ・ファシリテーター 筑波大学付属小学校講師 " 委員 町田万里子
- ・記録 跡見学園短期大学講師 " 委員 加藤 仁美

・ご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。

財団法人 住宅総合研究財団
〒156 東京都世田谷区船橋 4-29-8
電話 3484-5381・FAX 3484-5794 (事務局) 間宮 昭朗

お申込は同封の「はがき」でどうぞ

住・まちづくりフォーラムかわら版(仮題) 2
1994年 3月14日発行(非売品)

発行人 大坪 昭
発行所 財団法人 住宅総合研究財団
〒156 東京都世田谷区船橋 4-29-8
電話 3484-5381・FAX 3484-5794

